

新旧対照表

【旧：平成 25 年度策定の計画の概要】

【新：平成 28 年度見直し後の計画の概要】

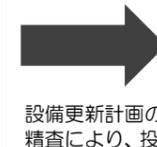
計画期間		平成 25 年度から平成 44 年度までの 20 年間	
計画目標	利用者数	平成 24 年度比 27,000 人/日増加 (79,000 人/日)	
	運輸収入	平成 24 年度比 477 万円/日増収 (1,496 万円/日)	
	損 益	黒字継続及び概ね 10 年以内の債務超過の解消	
経営改善 の取組	収入 確保策	短期的取組	○既存区間の利用促進 (平成 29 年度までに 2,000 人/日増) ※内容は別紙の①の取組 ○新白島駅開業効果 (開業 (平成 27 年度) 以降 7,000 人/日増)
		中・長期的 取組	○多角経営化の検討 (短期的取組に加え、平成 44 年度までに 5,000 人/日増) ○延伸による事業区域の拡大と広域集客化 (延伸による利用者増：10,000 人/日増 延伸による会社の増収策への波及効果：3,000 人/日増) ※内容は別紙の②の取組
	支出 削減策	投資の 効率化	設備更新の平準化等 (投資額 約 233 億円)
		徹底的な 経費節減の 継続	人件費・物件費の経費節減等を継続
	実行体制 の確保	実施体制 づくり	プロジェクトチームの設置
		計画のフォ ローアップ	定期的な増益効果等の検証 平成 28 年度に、取組の達成状況や新白島駅の開業効果、アス トラムラインの延伸事業の進捗状況を踏まえて、計画を修正
広島市 の支援等	平成 28 年度まで	平成 26 年度に見込まれる資金不足を回避するため、平成 28 年度 の計画見直しまでの対応策として以下の支援を実施する。 【借入金の返済猶予】 長期借入金：返済額について、毎年度 5 億円から、経営改 善の取組に必要な経費を 1 億円を上限に減額 単年度借入金：毎年度の借入額について、155 億円に据置き	
	平成 29 年度以降	平成 28 年度の計画見直し時に、以下の市の支援及び利用者負 担について、実施する組合せを検討し、決定する。 【市の支援及び利用者負担】 ①長期借入金・単年度借入金の返済額猶予及び返済繰延べ ②設備更新費補助 ③運賃値上げ又は定期割引率の変更	



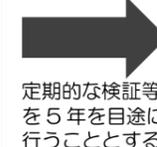
目標を上方修正
するとともに、
次の計画の検証
までの 5 年間の
目標を設定



短期的取組と
中・長期的取組
を、収入確保策と
して統合



設備更新計画の
精査により、投資
額を時点修正



定期的な検証等
を 5 年を目途に
行うこととする。



【市の支援】
借入金の返済猶予の
継続
○長期借入金完済
H36⇒H62
○単年度借入金完済
未定⇒H84

【利用者負担】
定期割引率の変更を
継続検討

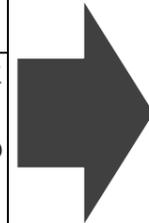
計画期間		平成 25 年度から平成 44 年度までの 20 年間	
計画目標	利用者数	平成 24 年度比 28,000 人/日増加 (80,000 人/日) [平成 30~34 年度の目標 平成 29 年度比 1,700 人/日増加]	
	運輸収入	平成 24 年度比 495 万円/日増収 (1,514 万円/日)	
	損 益	黒字継続及び平成 30 年度頃の債務超過の解消	
経営改善 の取組	収入確保策	【平成 29 年度まで】 ○既存区間の利用促進 (平成 29 年度までに 3,000 人/日増) ※内容は別紙の①' の「増客事業、誘客事業及び経営資源の活用」 のうち、新規取組案以外の取組 ○新白島駅開業効果 (開業 (平成 27 年度) 以降 7,000 人/日増) 【平成 30 年度以降】 ○新たな既存区間の利用促進 (平成 44 年度までに 5,000 人/日増) ※内容は別紙の①' の取組	
		支出 削減策	投資の 効率化
	徹底的な 経費節減の 継続		人件費・物件費の経費節減等を継続
	実行体制 の確保	実施体制 づくり	プロジェクトチームの設置
		計画のフォ ローアップ	5 年を目途に定期的に計画の進捗状況の検証を行い、必要に 応じて、計画の目標値及び経営改善の取組の内容などについて見直し
	広島市 の支援等	平成 28 年度まで	平成 26 年度に見込まれる資金不足を回避するため、平成 28 年 度の計画見直しまでの対応策として以下の支援を実施する。 【借入金の返済猶予】 長期借入金：返済額について、毎年度 5 億円から、経営改 善の取組に必要な経費を 1 億円を上限に減額 単年度借入金：毎年度の借入額について、155 億円に据置き
平成 29 年度以降		【借入金の返済猶予の継続】 長期借入金：平成 62 年度まで繰延べ (H29-41:約 1 億円/年返済、H42-62 約 8 億円/年返済) 単年度借入金：平成 62 年度まで 155 億円に据え置き 有利子の長期借入金を完済後の平成 63 年度から、返済を再開 (H63-76:約 5 億円/年返済、H77-84:約 9 億円/年返済) 【定期割引率の変更】 次回予定の計画のフォローアップの時期を目途に、利用者の負 担や会社の経営に与える影響などを慎重に見極めた上で、再度 実施検討	

【旧：平成 25 年度策定の計画の収入確保策】

【新：平成 28 年度見直し後の計画の収入確保策】

① 短期的取組（既存区間の利用促進）

区分	取組案		
	自社での取組	広島市の支援が必要な取組	他社との調整が必要な取組
増客事業	○ダイヤ改正等による増客検討	○学校行事等を広域公園へ誘致 ○区の事業等との連携事業	○紙屋町地区百貨店等との連携事業 ○安佐動物公園との連携事業 ○ホームのラッピング
誘客事業	○観光客等の誘客に向けたフィルムコミッションへの撮影協力 ○各種イベント列車の運行	○フィーダーバスの充実 ○県庁前駅の空きスペースの活用	○既存の案内表示機の活用による誘客 ○地域の情報発信や地域との交流事業
経営資源の活用	○社有施設等の活用 ○車両基地見学会 ○太陽光発電事業 ○駅窓口での雨具の販売	○本社等の活用によるこども預かり事業等	○本社等の空きスペースの賃貸



当初計画で実施予定としていた取組を、再整理

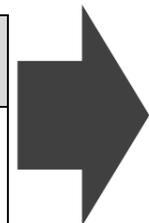
①' 既存区間の利用促進

◎：新規取組案

区分	取組案		
	自社での取組	広島市の支援が必要な取組	他社との調整が必要な取組
増客事業	○ダイヤ改正等による増客検討	○学校行事等を広域公園へ誘致 ○区の事業等との連携事業	○紙屋町地区百貨店等との連携事業 ○安佐動物公園との連携事業 ◎沿線の子育て施設との連携事業
誘客事業	○観光客等の誘客に向けたフィルムコミッションへの撮影協力 ○各種イベント列車の運行 ○イメージキャラクター「アストラムラインくん」の広報への活用 ◎訪日外国人の受入体制強化	○県庁前駅の空きスペースの活用 ◎観光施策と連携したPR活動	○沿線の文化施設等と連携したスタンプラリー ○ラッピング列車の運行 ○ホームのラッピング ○地域の情報発信や地域との交流事業
経営資源の活用	○社有施設等の活用 ○車両基地見学会 ○駅窓口での雨具の販売 ○ヤフーオークションへの使用済部品等の出品 ◎駅窓口でのイベントチケット販売 ◎新型車両導入を契機とした仕掛けづくり	◎新白島駅連絡通路の活用	
延伸事業を契機とした連携		○西風新都等沿線団地の充実に向け、広島市と連携	○延伸区域内の開発事業者（イオンモール）との業務提携
交通事業者等との連携	○他の交通事業者（バス、タクシー等）との連携 ○開発事業者との連携		

② 中・長期的取組

区分	取組案
延伸による事業区域の拡大と広域集客化	○西風新都の充実に向け、広島市と連携 ○延伸区域内の開発事業者との業務提携
多角経営化の検討	○他の交通事業者（バス、タクシー）との業務提携 ○開発事業者との連携 ○沿線の誘客施設の運営主体化



当初計画で実施予定としていた取組を、再整理